

9

ナルニア国物語 2

ライオンと魔女と衣装だんす

C・S・ルイス

土屋京子・訳

玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)

第9話 扉のこちら側では(後編)





よく
考えてごらん

そこは
よくよく慎重に
考える必要がある

たとえば――

……こんな
質問をしては
失礼かも
しれないが――

きみたちの
経験からして

弟さんと妹さんの
どちらかのほうが
より信頼できる

というような
ことは
あるかな？

つまり

どちらが
より正直か

という
ことだが？

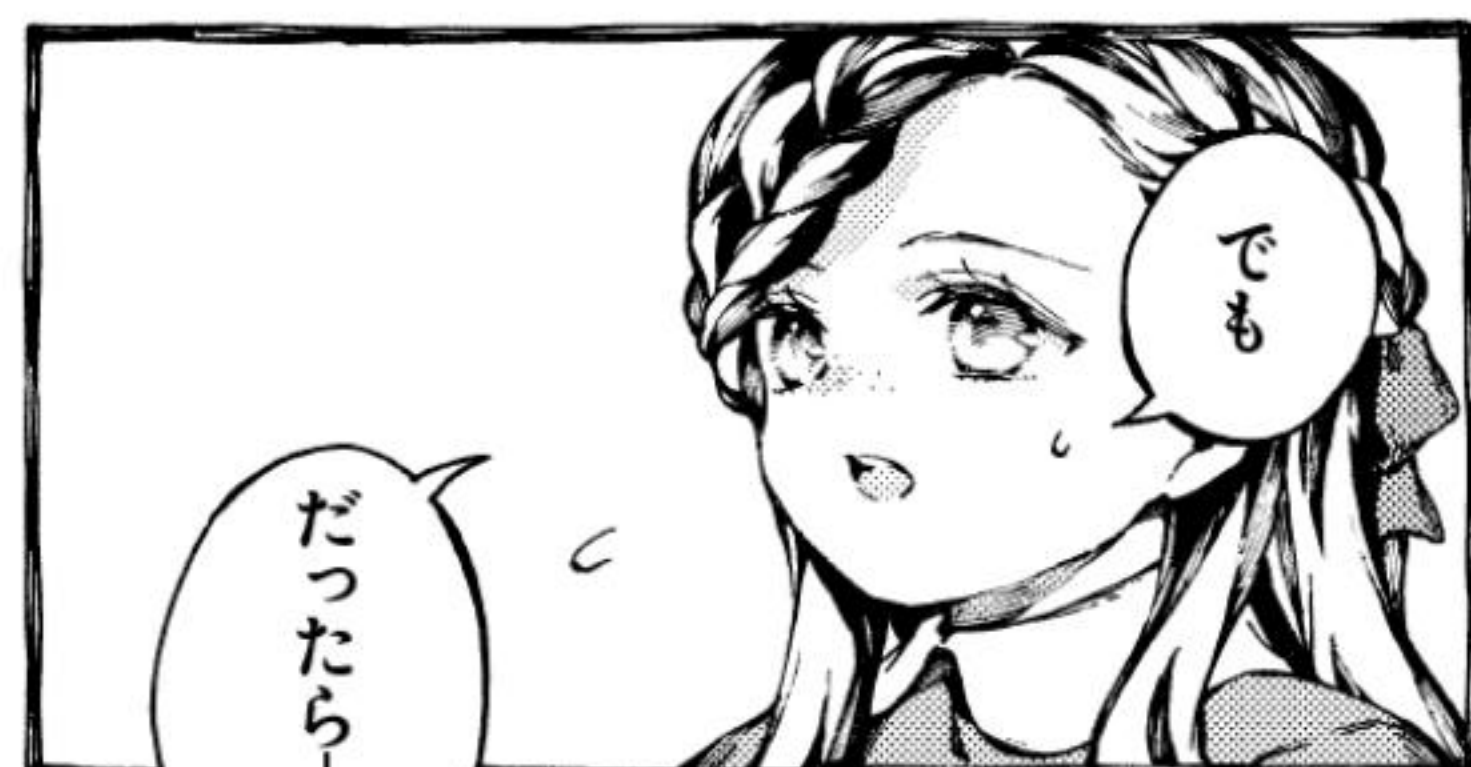
そこが

ぼくたちと
しても

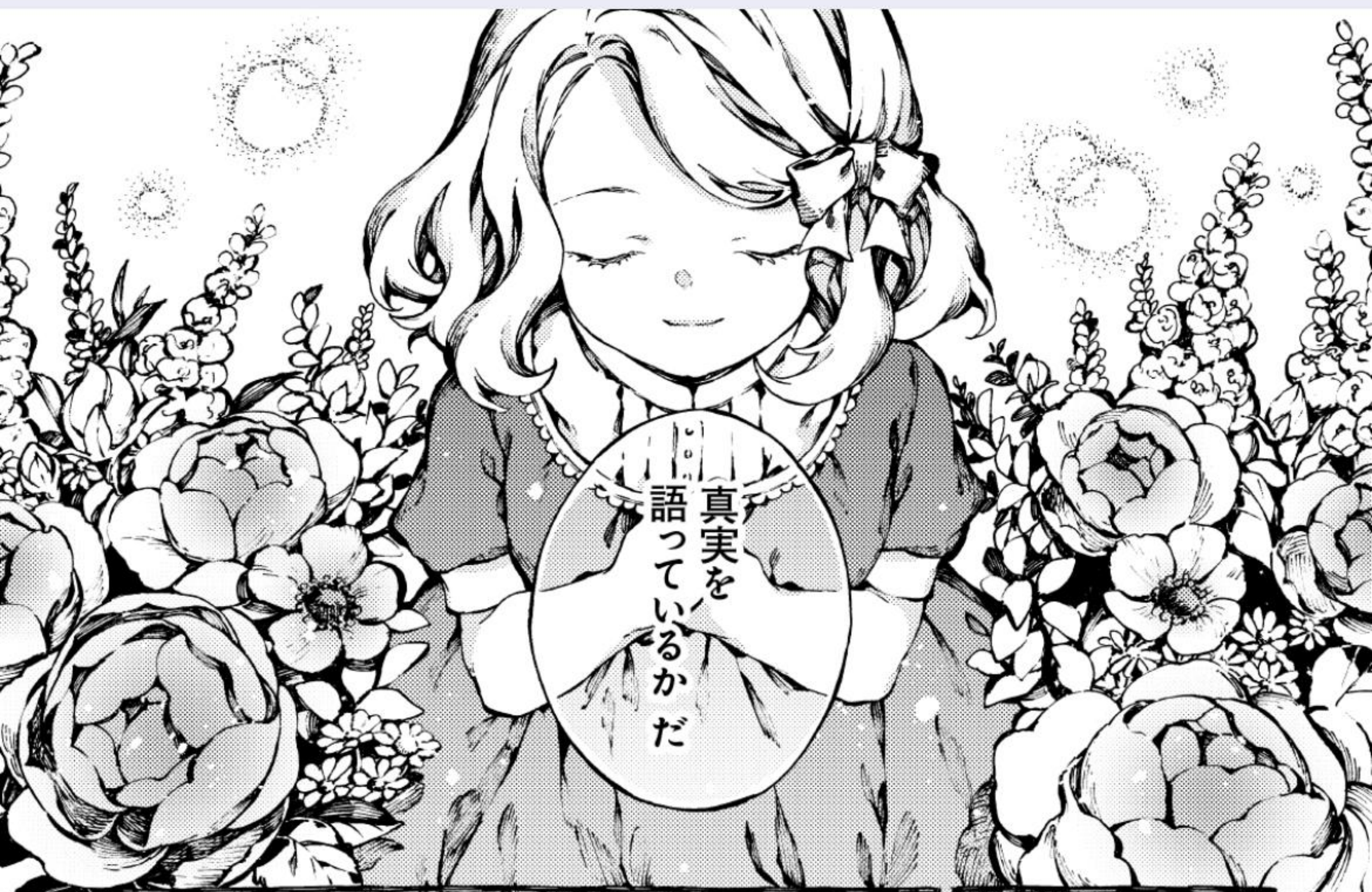
どうにも
すつきりしない
ところなんです











真実を
語っているかだ



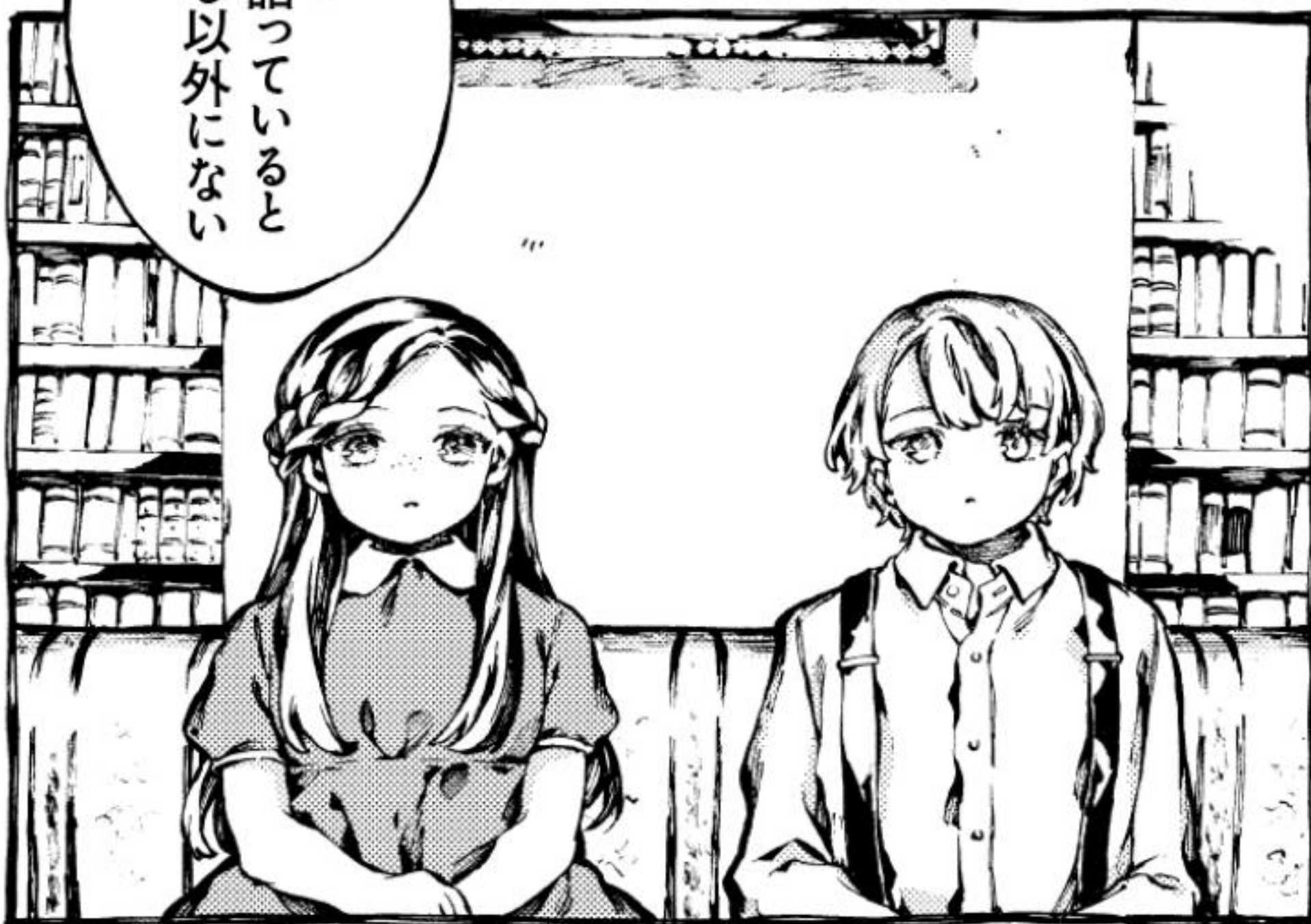
妹さんが
うそつきで
ないことは
きみたちが
知っている

正気で
あることも

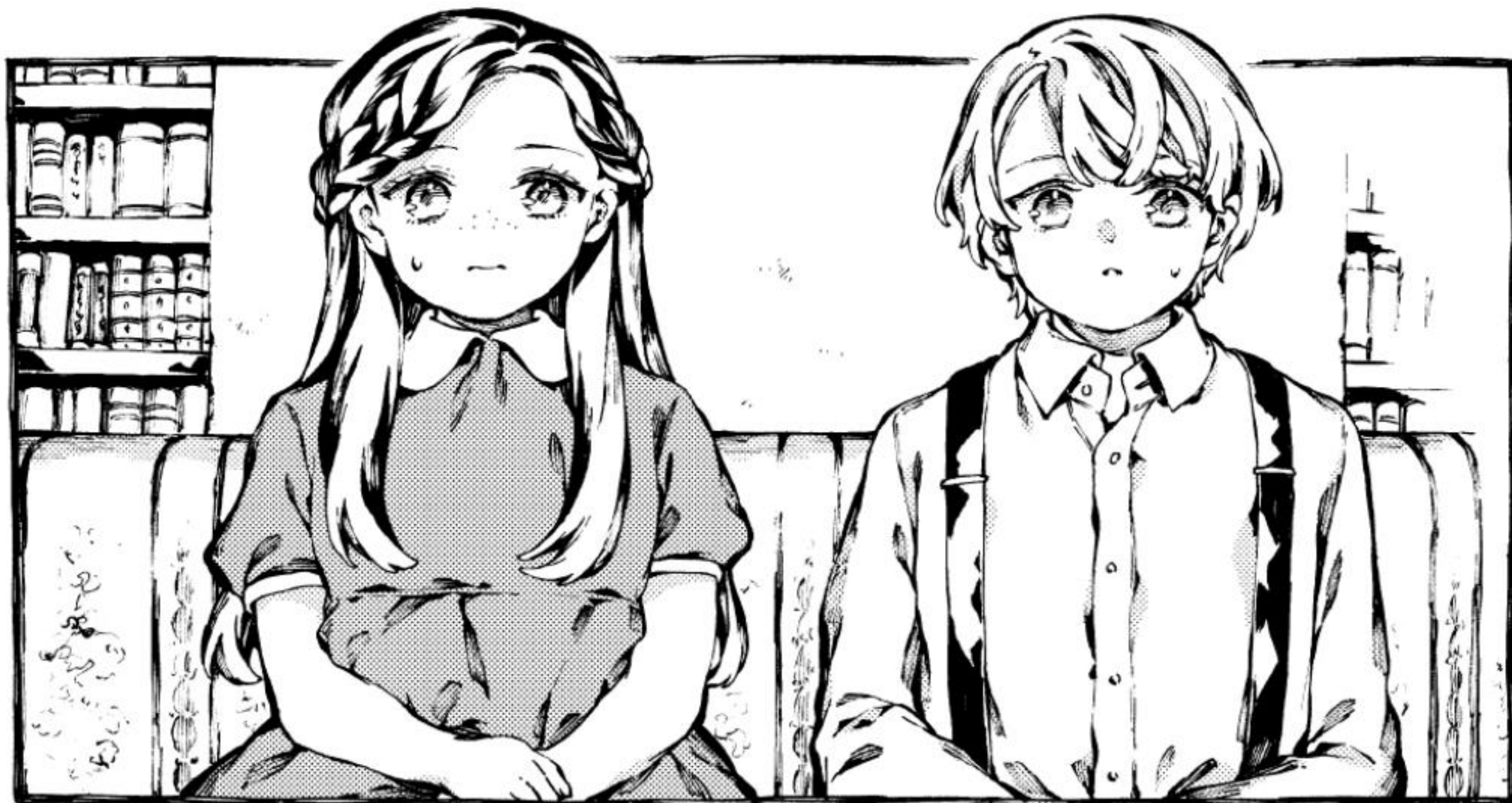
見ればわかる



となれば
さしあたり
ほかの根拠が
出てこない
かぎり



妹さんが
真実を語っていると
推論する以外にない





それがこの件と
どう関係
あるのかね？

だって

もし何かが
本物だとしたら

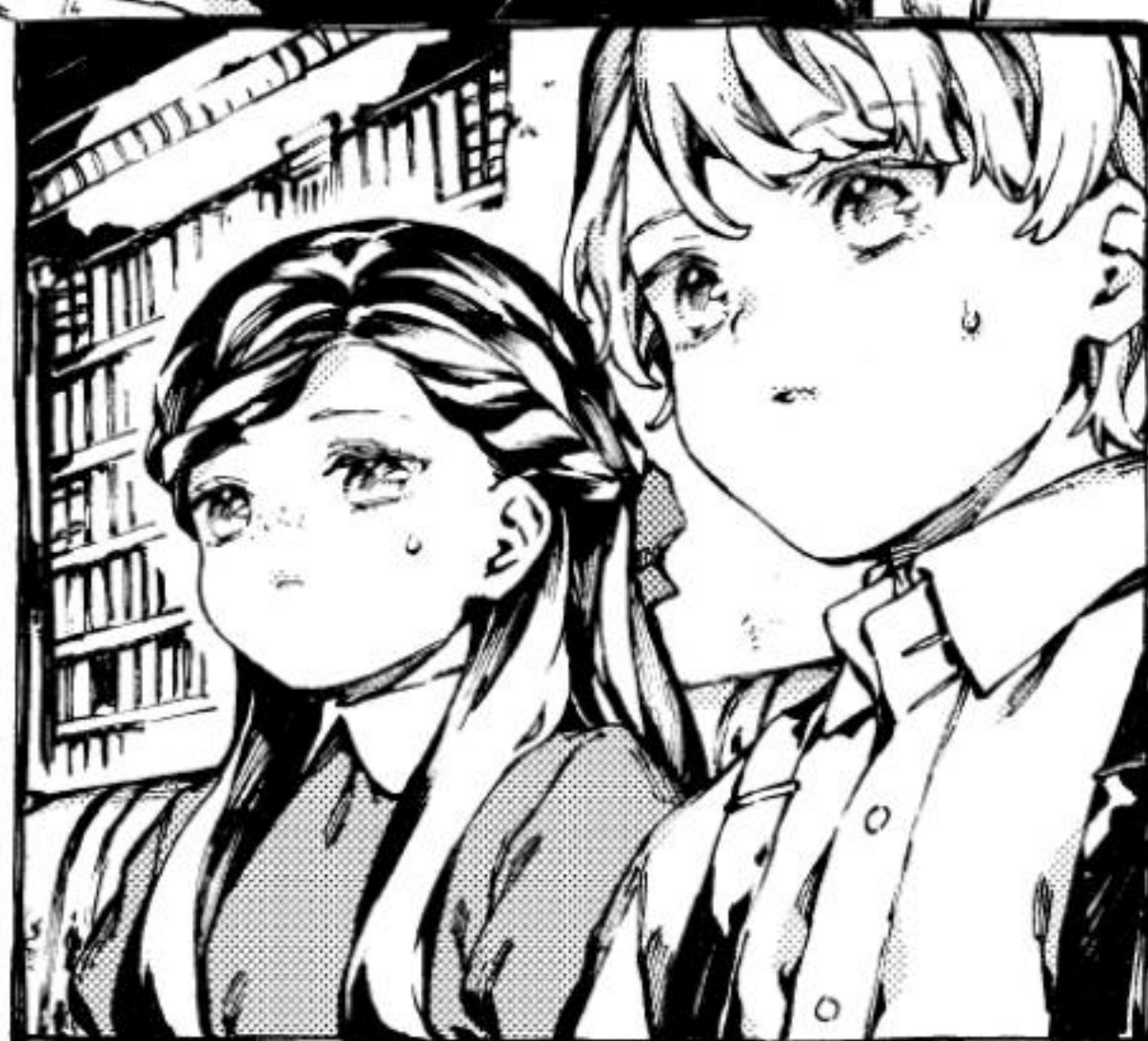
いつもそこに
あるはずだと
思うからです



そうかな？



それに
時間も
ぜんぜんたつて
なかったんです





この屋敷のどこかに
別の世界へつながる扉が
ほんとうにあるとして――

…警告して
おくがね

――もし
ルーシーが別の世界へ
はいったのだとしたら

そっちの世界が
こちらとはちがう
独自の時間軸で
動いていたとしても

わたしは
驚かないね

ここは
奇妙な屋敷で

わたしでさえ
大部分は
よくわからない
ままなのだよ

それこそ

ルーシーの話の
信憑性を裏づける
ポイントだと思うよ





つまり

むこうにどれほど
長いあいだ
滞在したとしても

われわれの
世界における時間は
少しも経過していない

ということとは
ありうるのだ



一方で

そうした概念を
ルーシーくらいの
年齢の女の子が
自分で思いつくとは
考えにくい

もし

ルーシーが別の世界へ
行っていたふりを
しようとしたならば

それなりの時間が
過ぎるまで隠れていて

それから出てきて
話をしたはずでは
ないだろうか



それでは

教授はほんとうに
別の世界があると
お考えなのですか？

あちこちに？

すぐその角を
曲がった先

みたいな
場所に？

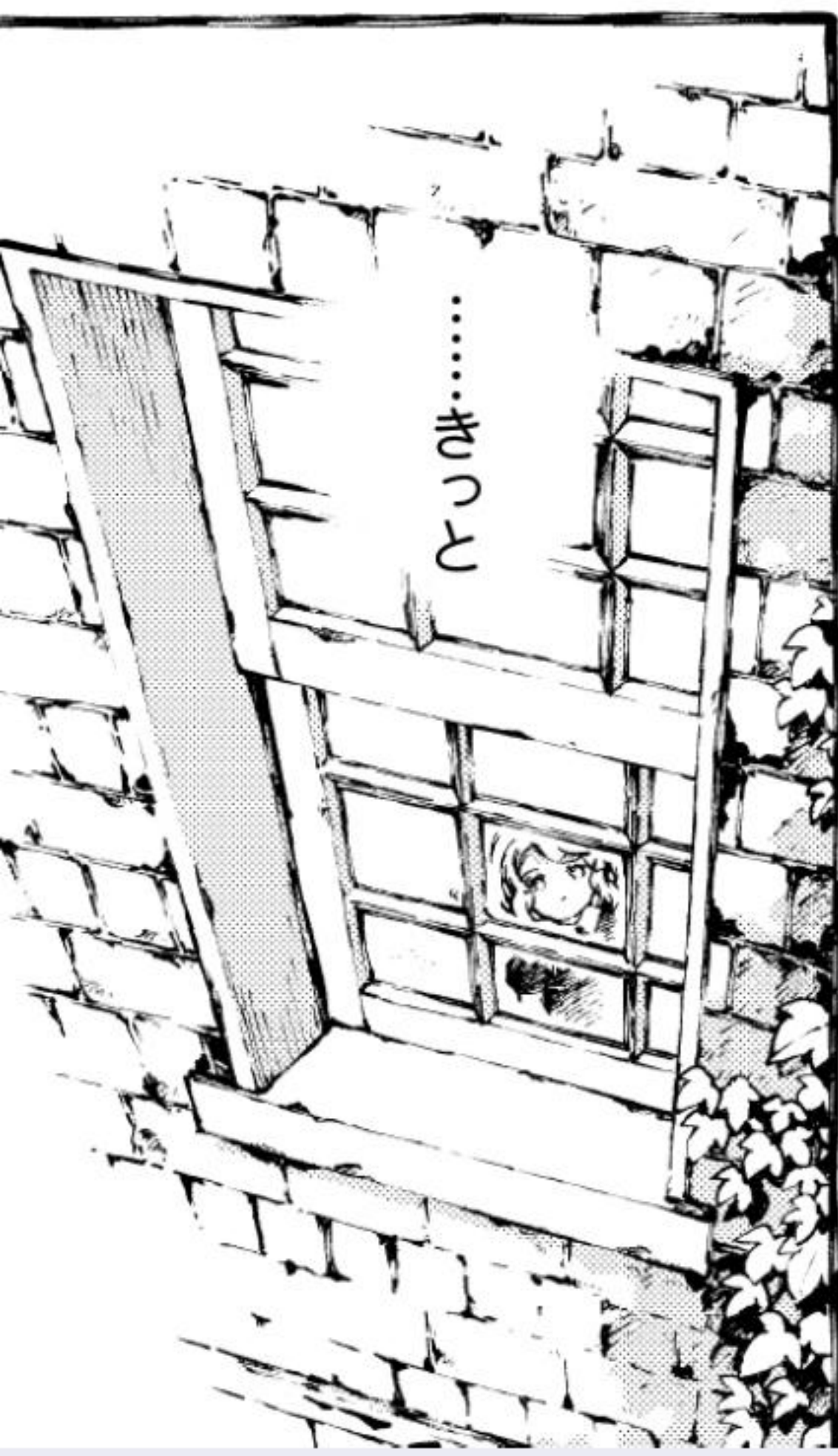
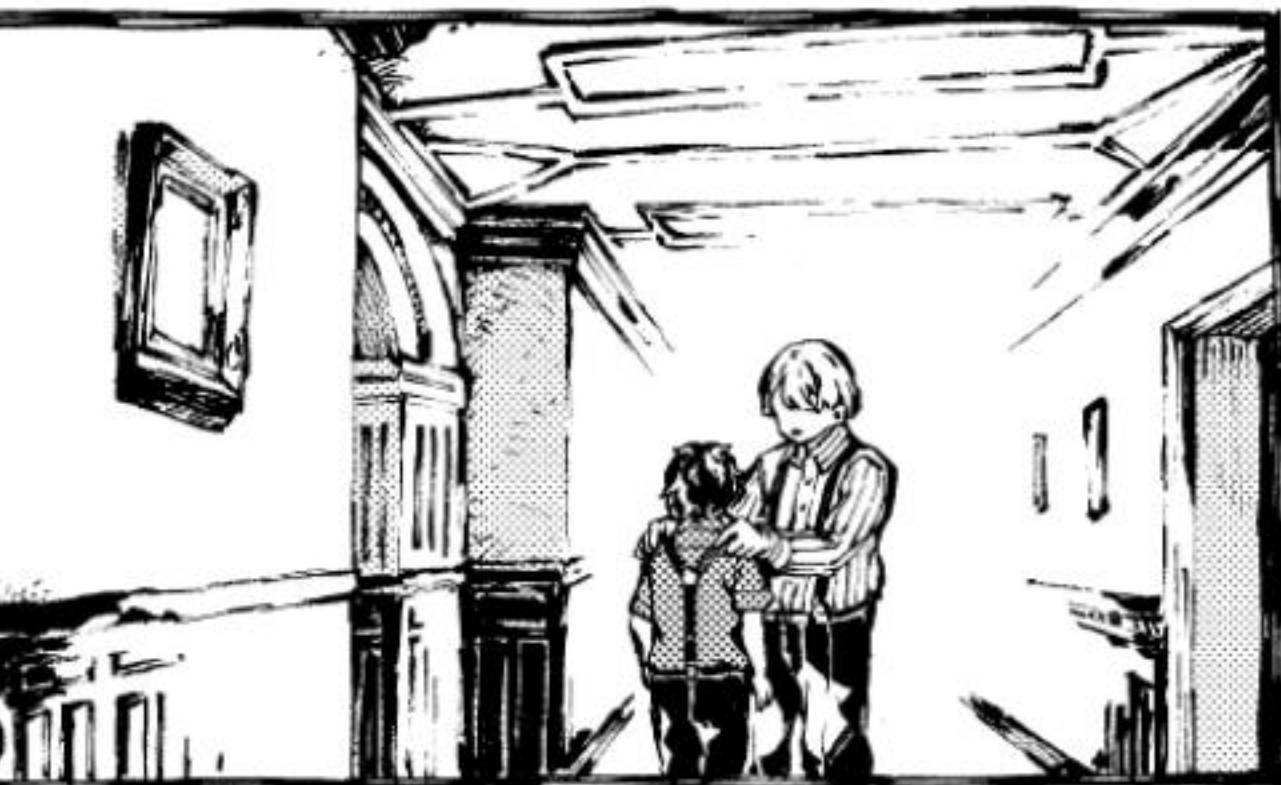
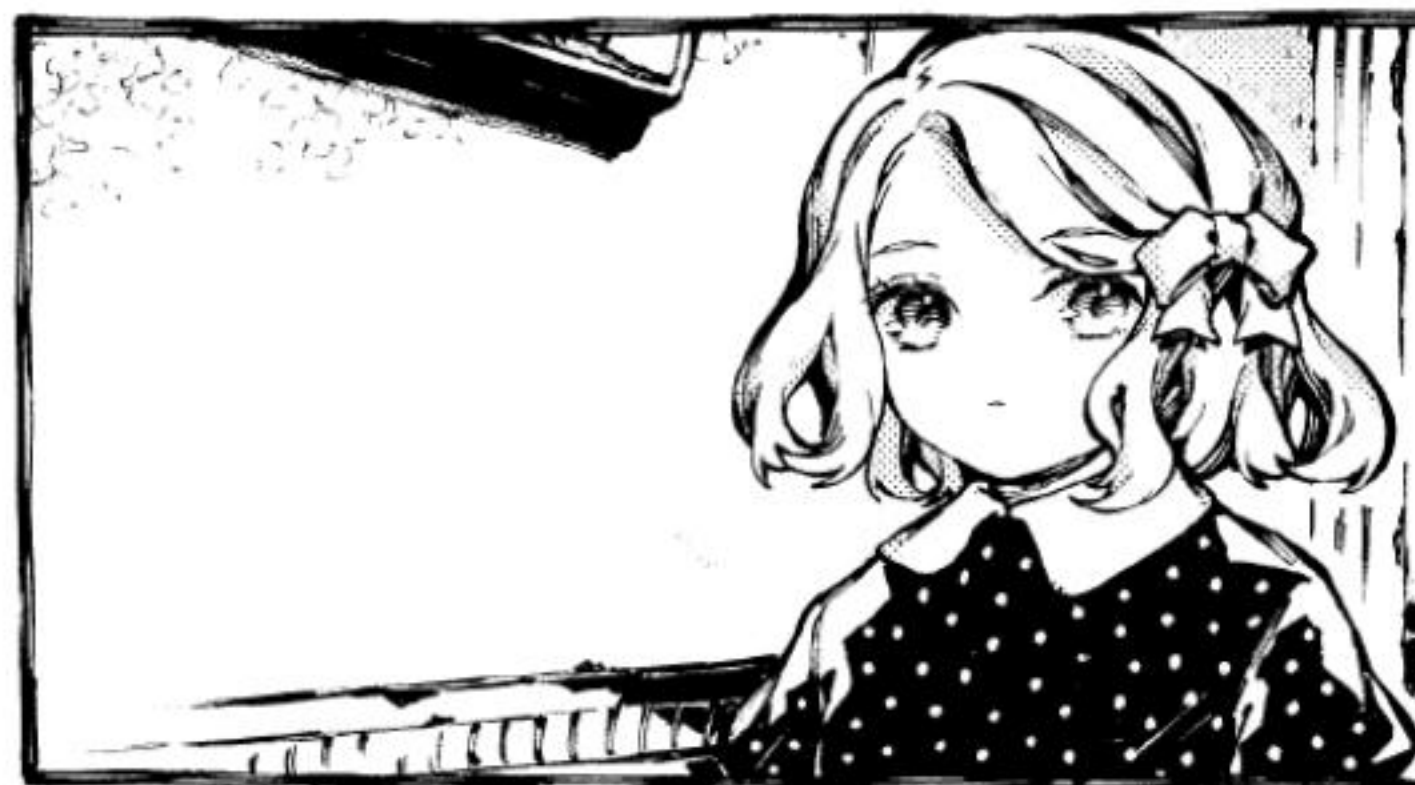


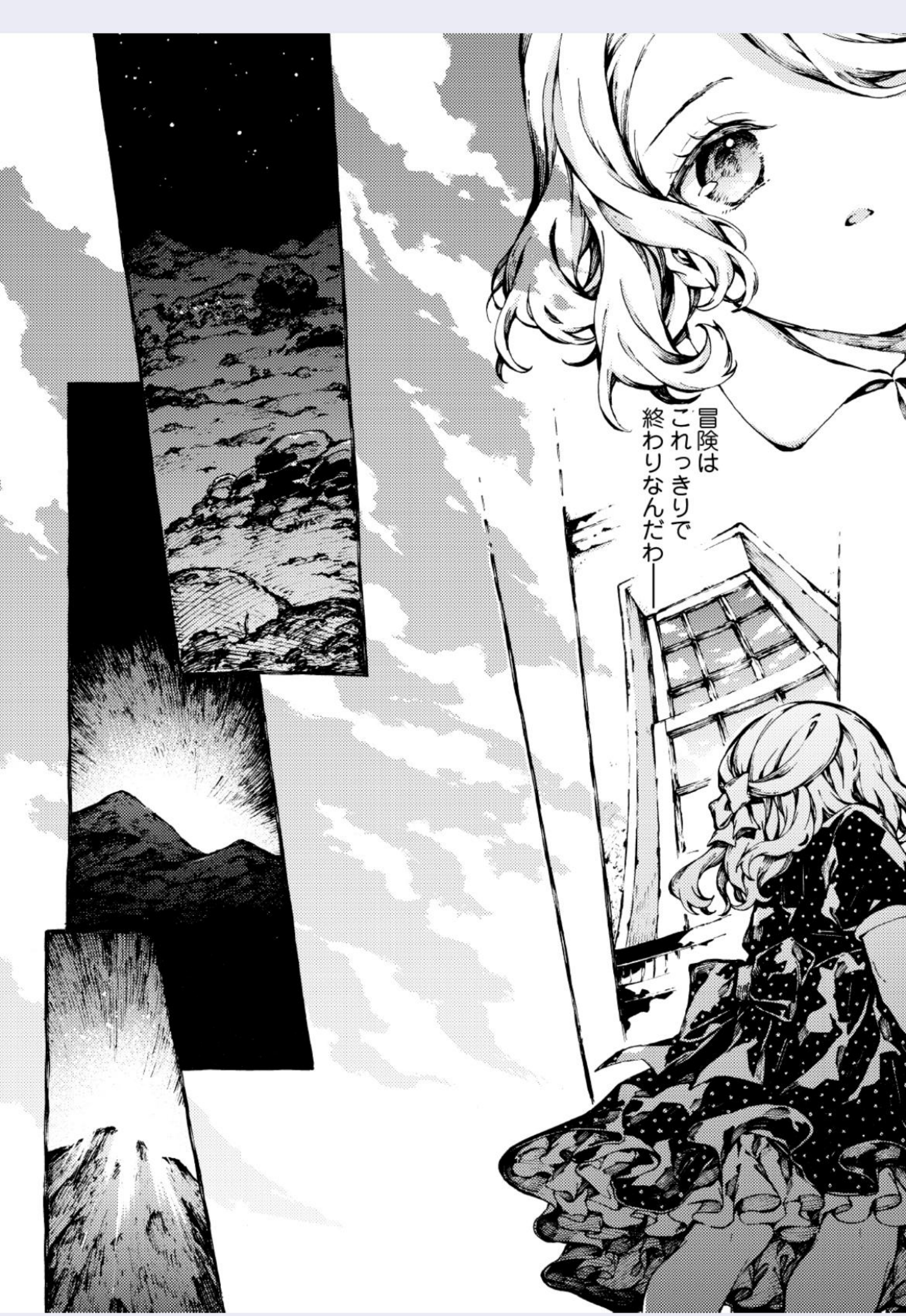


おたがい

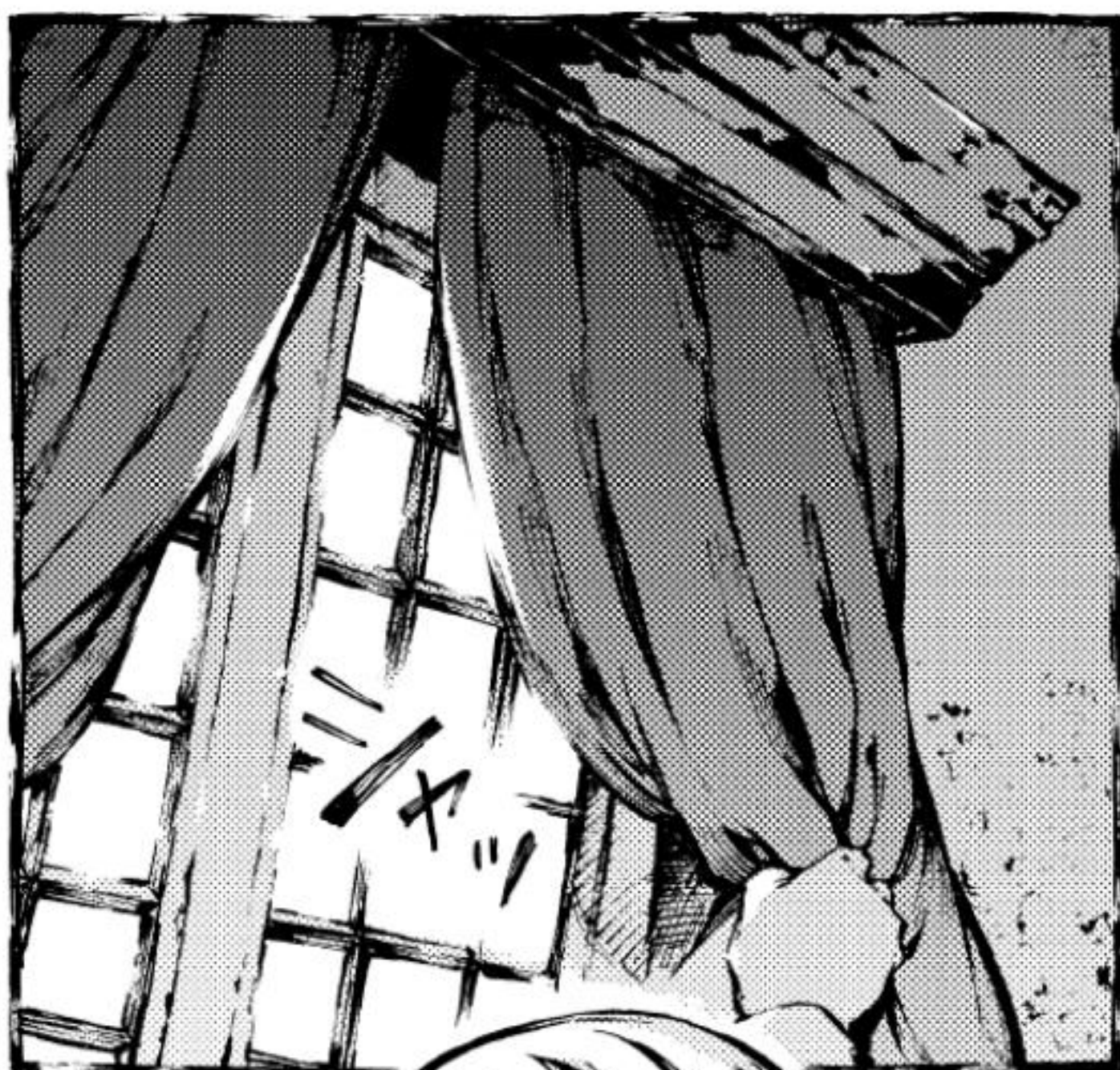
他人の詮索を
控えることだよ







冒険は
これっきりで
終わりなんだわ





この屋敷の
歴史は
とても古く

旅行の
ガイドブックや
歴史の本にも
出てくるほど
有名な建物です

屋敷に伝わる
さまざまな話を求めて
イギリスじゅうから
見学の申しこみがあり

カーク教授は
いつも見学の許可を
出されます

わたしが
見学者の団体を連れて
屋敷の中を
案内しているときは

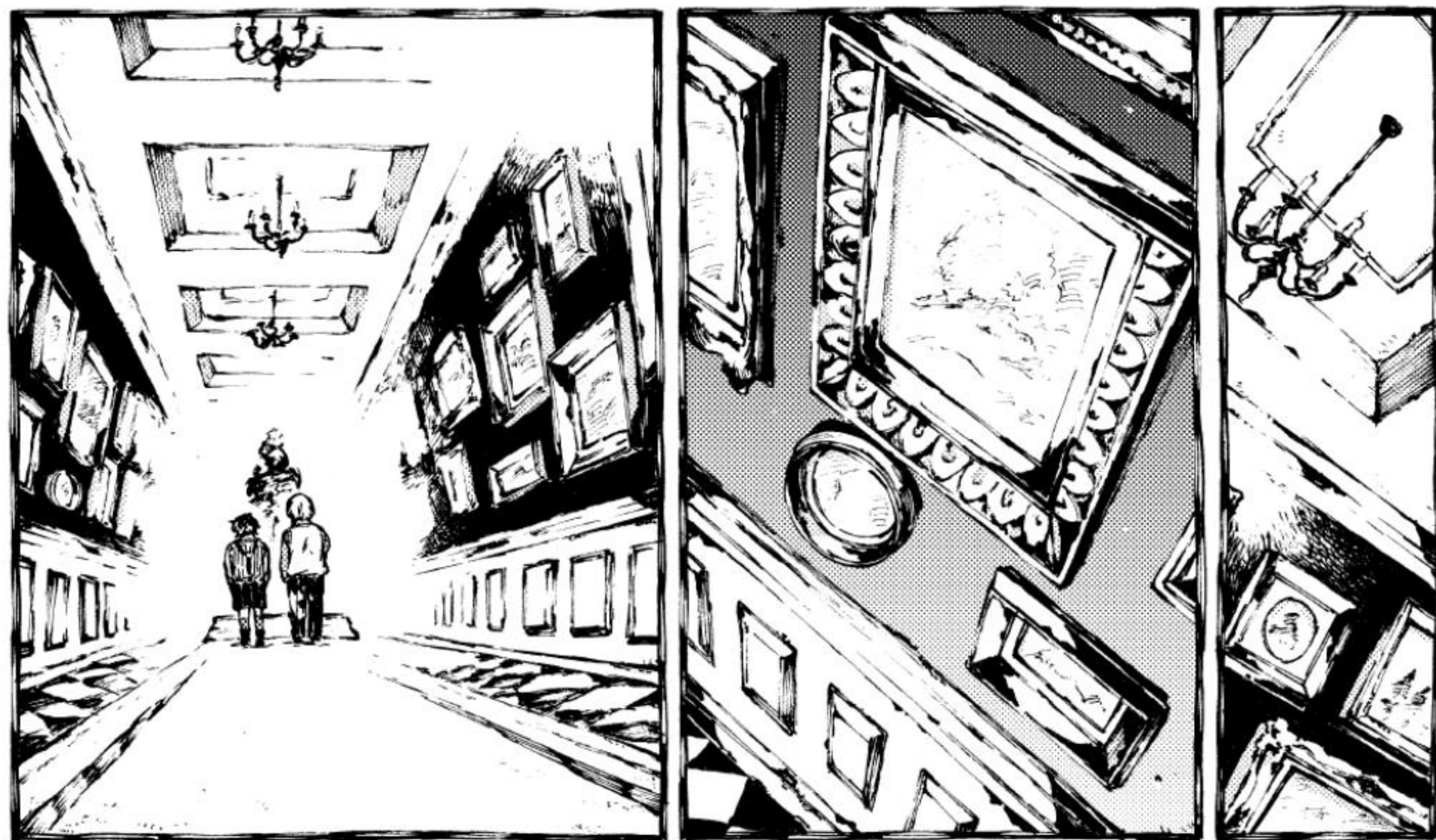
じやまを
しないように
願いますよ

それから――

いきなり
あれには
まいったよ

それに











わっ！



正面の階段じゃ
なくて

裏手の階段から
上がって
きたんだわ！



